

# 大学における ダイバーシティ

大学におけるダイバーシティの意味を教育の視座から捉えれば、それはさまざまな他者との出逢いから学び合う機会の創出そのものに他ならないでしょう。21世紀の国際化社会の変化と呼応するように、大学はそうした学び合いの機会をこれまで以上に内包しようとしています。すなわち、大学という場を形づくり、制度を運用する人びとが、かつてないほどの広がりや深さを湛えた視点で大学を見つめ直し、弾力性や寛容性を備えた組織づくりに挑戦しているのだと言えるでしょう。

第24回FDフォーラムは、学生、教職員、産業界や地域の人びと等の立場を越えて、このような大学の挑戦について未来志向で議論する第一歩にするべく、統一テーマを「大学におけるダイバーシティ」に設定しました。この統一テーマに多角的に迫るために、2つのシンポジウムを企画しました。一つは「大学に集う人々の多様性にいかに向き合うか」がテーマであり、もう一つは「社会人の「学び直し」と大学教育」がテーマです。フォーラム2日目には、11の興味深い分科会を企画しました。

会場校の立命館大学衣笠キャンパスは、金閣寺、龍安寺、仁和寺をはじめとする京都市北西部の観光名所にほど近いきぬかけの路に位置します。時節柄、うっすら雪景色のキャンパスとなるかもしれません。参加者には遠路足をお運びいただくこととなりますが、関係者一同、みなさまの多様な視点による活発な議論を心待ちにしております。

第24回FDフォーラム企画検討委員会  
委員長 鳥居 朋子

## ●スケジュール

	時間	内容	会場
3月2日 <sup>土</sup>	12:00	受付開始	以学館
	13:00~17:00	シンポジウム①・②	
	17:30~19:00	情報交換会	諒友館 地階食堂
3月3日 <sup>日</sup>	9:00	受付開始	敬学館
	10:00~12:00	分科会(午前)	
	12:00~13:30	休憩 ポスターセッションコアタイム	
	13:30~15:30	分科会(午後)	

※シンポジウムは①か②のいずれか一つへの参加となります。

※分科会は、午前と午後で同じ分科会への参加となります。申込みをされた分科会以外には参加することができませんのでご注意ください。

※ポスターセッションコアタイムには、発表者がポスター前で参加者の質問に答えます。

※荒天等により、スケジュールの変更、または中止の場合がございます。ご了承ください。

## 第24回FDフォーラム企画検討委員会 ★…委員長 ☆…副委員長

★鳥居 朋子 立命館大学 教育開発推進機構 教授	高橋 美帆 同志社大学 生命医科学部 助教
☆瀧本 真人 龍谷大学 国際学部 教授	西野 毅朗 京都橘大学 教育開発支援センター 講師
井口 博之 京都学園大学 バイオ環境学部 講師	平田 豊誠 佛教大学 教育学部 准教授
太田 容次 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 准教授	村上 正行 京都外国語大学 外国語学部 教授
小田 真隆 京都薬科大学 生命薬科学系 教授	安田 誠人 大谷大学 教育学部 教授
佐藤 賢一 京都産業大学 総合生命科学部 教授	山田 創平 京都精華大学 人文学部 准教授
高石 浩一 京都文教大学 臨床心理学部 教授	山田 剛史 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授

## 2018年度 第24回 FDフォーラム

# 大学における ダイバーシティ

日程 2019年3月2日<sup>土</sup>・3月3日<sup>日</sup>

会場 立命館大学 衣笠キャンパス  
3/2<sup>土</sup> 以学館 3/3<sup>日</sup> 敬学館

申込期間：2019年1月5日<sup>土</sup>～1月31日<sup>木</sup>

大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学先行申込期間：2018年12月14日<sup>金</sup>～12月21日<sup>金</sup>

主催：  公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto

後援：文部科学省・京都府・京都市

## シンポジウム①

テーマ: **大学に集う人々の多様性にいかに向き合うか**

会場: **以学館 IG101**

定員 **420名**(加盟校優先定員:250名)

大学には多様な人々が集まっている。人種、民族、国籍、ジェンダー、セクシュアリティ、障がいの有無はもちろんのこと、世代、主に用いる言語、宗教、職種なども様々である。大学に多様な人々が集まっているという認識は、大学においてマイノリティの権利が侵害されないよう配慮する上で重要である。また現在、世界は急速な国際化の途上にある。これからの大学教育や大学運営では、そのように国際化し、かつ多様性に満ちた世界を生きてゆく上で必要となる、開かれた人間観や社会観が求められる。

## シンポジスト



**ウスビ・サコ氏** 京都精華大学 学長

## 経歴

マリ共和国で生まれ、中国・北京語言大学、南京東南大学を経て来日。京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了。博士(工学)。2001年より京都精華大学教員。現在は京都精華大学学長、京都精華大学人文学部教授。

## 主な活動、著書

パンバラ語、英語、フランス語、中国語、関西弁を操るマルチリンガル。「空間人類学」をテーマに、学生とともに京都で各家庭の打ち水の範囲と近隣との友好度の関係を調査したり、マリの共同住居のライフスタイルを探るなど、国や地域によって異なる環境やコミュニティと空間のリアルな関係を研究。暮らしの身近な視点から、多様な価値観を認めあう社会のありかたを提唱している。編著書に「知のリテラシー・文化」ナカニシヤ出版(2007)、論文に「バマコの集合居住の生成と中庭型在来住宅の形成過程の考察」など。



**日高 庸晴氏** 宝塚大学 看護学部 教授

## 経歴

京都大学大学院医学研究科で博士(社会健康医学)取得。カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部エイズ予防研究センター研究員、公益財団法人エイズ予防財団リサーチレジデントなどを経て現職。

## 主な活動、著書

若者の健康リスク行動(エイズ予防や薬物使用等)の実態調査やLGBTsを対象にした国内最大規模のインターネット調査を継続実施している。研究成果をもとにした施策提言や、近年では法務省企画の人権啓発ビデオの監修、文部科学省が2016年4月に発表した性的指向と性自認に関する教職員向け資料の作成協力、人事院ハラスメント研修等の講師を務める。近著に「もっと知りたい話したい!セクシュアルマイノリティありのままのきみがいい1~3」汐文社(2015~2016)など。



**あかた ちかこ氏** 大阪市立児童自立支援施設阿武山学園 講師

## 経歴

立命館大学大学院修了。修士(応用人間科学)。思春期保健相談士。「Woman's Diary(1996年から2010年まで京都で有志によって発行されていた女性のための手帳)」編集長、ユースセンターや公益財団法人エイズ予防財団が運営するセクシュアル・マイノリティのためのコミュニティセンター相談員などを経て現職。

## 主な活動、著書

専門は対人援助学と包括的教育。大阪市派遣専門カウンセラーとしてHIV/AIDSの現場に関わりながら、全国の小中高등학교での授業やワークショップ、保護者向けの講演、教職員研修会や市民向け講座などで話す。特別支援学校やフリースクール、母子生活支援施設などで話すこともある。今年度から文化庁事業「芸術実践と人権」のゼミでモデレーターを務める。共著書に「たまたかLGBT&アート」法律文化社(2016)がある。



**松波 めぐみ氏** 立命館大学 生存学研究センター 研究員

## 経歴

大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学。(公財)世界人権問題研究センター専任研究員(人権教育)を経て現職。大阪市立大学ほか非常勤講師。

## 主な活動、著書

専門は人権教育と障害学。障害の社会モデルに基づく人権教育のあり方を探るとともに、「障害のある小・中・高・支援学校の教員」を対象とした調査を行ってきた。障害者差別解消法等をテーマとした教職員等への研修、教材開発にも携わっている。主著に「障害のある先生たちー「障害」と「教員」が交錯する場所で」(編著)生活書院(2018)、「人権教育総合年表ー同和教育、国際理解教育から生涯学習まで」(編著)明石書店(2013)、共著書に「ジェンダーの視点から学ぶ教育の現在」解放出版社(2008)など。

## コーディネーター



**山田 創平氏** 京都精華大学 人文学部 准教授

## 経歴

名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士課程修了。博士(文学)。財団法人エイズ予防財団リサーチレジデント、独立行政法人国際協力機構アジア地域短期技術協力専門家などを経て現職。

## 主な活動、著書

専門は社会学(社会と芸術、地域と人権)。京都市若手芸術家の居住・制作・発表の場づくり事業(HAPS)実行委員、公益社団法人企業メセナ協議会東日本大震災芸術・文化による復興支援ファンド(GBファンド)選考委員。編著書に「たまたかLGBT&アート」法律文化社(2016)、共著書に「ジェンダーと「自由」ー理論、リベラリズム、クィア」彩流社(2013)など。

## シンポジウム②

テーマ: **社会人の「学び直し」と大学教育**

会場: **以学館 IG102**

定員 **300名**(加盟校優先定員:180名)

人間が生涯学び続けることを支える教育システムを追求するにあたり、「人生100年時代」に固有な大学教育のあり方を検討することは重要である。産学連携によって社会人対象のプログラムを開発していくことは、大学教育に変容をもたらす、大学におけるダイバーシティを促進しうる。本シンポジウムでは、社会人の「学び直し」が今日の社会において持つ意味を問いつつ、今後の大学教育の課題について多角的な視点から議論する。

## シンポジスト



**稲永 由紀氏** 筑波大学 大学研究センター 講師

## 経歴

九州大学大学院教育学研究科博士後期課程を単位取得退学ののち、九州大学教育学部助手、広島大学高等教育研究開発センター助手、香川大学大学教育開発センター講師を経て、2005年より現職。

## 主な活動、著書

専門:教育社会学、高等教育論  
地域・社会との関係からみた高等教育の機能に関心を持ち、短期高等教育、職業教育、継続教育まで射程に入れながら研究活動中。現在、日本高等教育学会理事、日本インターナショナル学会理事。近著に「非大学型高等教育を担う教員と教育組織」(編著)広島大学高等教育研究開発センター(2018)。



**野澤 正充氏** 立教大学 副総長/立教セカンドステージ大学 副学長

## 経歴

1983年立教大学法学部法学科卒。1991年3月立教大学 法学研究科 民刑事法専攻博士課程 単位取得満期退学。1995年立教大学法学部助教授。1996年パリ第2大学客員研究員。2002年立教大学法学部法学科教授。2004年立教大学法務研究科教授。2018年から現職。

## 主な活動、著書

専門:民法、消費者法、フランス法  
法務省司法試験審査委員、人事院・国家公務員総合職(旧I種)試験専門試験委員、最高裁判所・契約監視委員会委員長、東京都消費生活対策審議会会長代理、日本学術会議会員。「債務引受・契約上の地位の移転」一粒社(2001)、「契約譲渡の研究」弘文堂(2002)、「瑕疵担保責任と債務不履行責任」(編著)日本評論社(2009)、「民法学と消費者法学の軌跡」信山社(2009)。



**岡田 忠克氏** 関西大学 学長補佐/人間健康学部 教授

## 経歴

1993年同志社大学文学部社会学科卒。大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程単位取得後退学。流通科学大学助手、大阪産業大学経済学部講師、助教授、関西大学文学部助教授を経て現職。博士(学術)。

## 主な活動、著書

専門:社会福祉政策及び運営管理  
主に福祉国家の形成過程における福祉行政及び運営管理の国際比較研究を行っている。主著は、「社会福祉の理論と政策」(共著)中央法規出版(2000)、「よくわかる社会保障」(共編著)ミネルヴァ書房(2006)、「転換期における福祉国家」関西大学出版部(2009)、「ソーシャルワークビルディング事始め」(共著)有斐閣(2000)。



**平居 聡士氏** 学校法人立命館 総務部 秘書課長

## 経歴

2001年早稲田大学第一文学部卒。一般企業勤務を経て2003年学校法人立命館入職。2015年総務部総務課長。2016年より現職。2018年立命館大学大学院経営管理研究科修了。

## 主な活動、著書

立命館入職後、約8年間教育学部(学部事務室、教務課)にて勤務。2007年同法人「幹部職員養成プログラム」受講(理工系学生への学習支援システムを研究)。2008年より1年間、北米大学にて研修実施。2011年以降は総務部にて、主に組織機構改革や役員秘書業務等の法人運営業務に従事。「大学行政策論ー職員がつくる教育と研究の新たな仕組み」(近森節子編、上記プログラム受講生による共著)東信堂(2011)。

## コーディネーター



**村上 正行氏** 京都外国語大学 外国語学部 教授

## 経歴

1997年京都大学総合人間学部卒。2002年京都大学大学院情報科学研究科博士後期課程指導認定退学。2002年京都外国語大学外国語学部講師、マルチメディア教育研究センター教授などを経て、2017年より現職。博士(情報学)。

## 主な活動、著書

専門:教育工学、大学教育学  
高等教育における教育データ分析、ラーニングコモンズ、FDや授業改善に関する研究に従事。日本教育工学会理事、大学教育学会評議員。日本教育工学会論文賞(2011)。「授業改善とインストラクショナルデザイン」(共著)ナカニシヤ出版(2017)。

第1分科会 定員 160名(加盟校優先定員:95名)

教学IR:ケーススタディーから学ぶデータの活用方法

本分科会では、「教学に関するIR」、すなわち、「教育全般に関する情報収集・提供及びデータ分析、並びに教学政策の策定及びその支援を行う取り組み」(龍谷大学における教学IRの定義より)を取りあげる。具体的には、学生調査などのデータを授業改善といった教学分野で実際に活用している例をケーススタディーとして報告してもらい、教学における内部保証の向上につなげるための具体策の検討をおこないたい。

- コーディネーター 瀧本 真人氏 龍谷大学 国際学部 教授
報告者 山下 仁司氏 大阪大学 高等教育・入試研究開発センター 教授
畑野 快氏 大阪府立大学 高等教育開発センター 准教授
小山 理子氏 京都光華女子大学短期大学部 准教授
藤田 和弘氏 龍谷大学 教学企画部長 / 理工学部 教授

第4分科会 定員 30名(加盟校優先定員:18名)

大学地域連携を通じたの学生教育

大学と地域との連携活動は研究、人的交流、産業活性化など双方にメリットがあり、これに学生が参加する場合には地域は体験・実践型学習を行えるフィールドとなり教育効果も大きく期待できる。一方、連携活動では通常の講義とは異なる課題や負担が教員に生じていると思われる。本分科会では、教員の専門外分野での連携、学生ショップの活用、遠方地域との連携をキーワードに持つ連携活動の事例を紹介していただき、優れた点・課題点をふまえて効果的な教育の進め方を考える。

- コーディネーター 井口 博之氏 京都学園大学 バイオ環境学部 講師
報告者 大倉 真人氏 同志社女子大学 現代社会学部 准教授
藤川 義雄氏 京都学園大学 経済経営学部 教授
中村 智彦氏 神戸国際大学 経済学部 教授

第7分科会 定員 30名(加盟校優先定員:18名)

理工系コープ/インターンシップ教育における学生、企業人、大学教職員の協働と成長

大学等におけるインターンシップ(以下、インターンシップ)とは、学生が企業等において、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験をする制度である。本分科会では、京都産業大学情報理工学部インターンシップの実践事例、ならびに東京電機大学理工学部および京都産業大学生命科学部の当該将来構想を題材にして、学生はもとより、大学と企業それぞれにとってのよりよいインターンシップのあり方を設計、運営、持続的発展などの観点から検討・探求する場としたい。

- コーディネーター 佐藤 賢一氏 京都産業大学 総合生命科学部 教授
報告者 荻野 晃大氏 京都産業大学 情報理工学部 准教授
木村 成介氏 京都産業大学 総合生命科学部 教授 / キャリア教育センター センター長
長原 礼宗氏 東京電機大学 理工学部 教授

第10分科会 定員 30名(加盟校優先定員:18名)

アクティブ・ラーニングを推進するための検討会 -小・中学校で行われている授業体験と大学における主体的・協働的な授業-

現在の小学校や中学校で行われている授業を実際に体験し、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)を大学授業で取り入れていくためのヒントを考えたい。大学における主体的・協働的な授業を実施していくためにどのような授業方法や内容が考えられるのか。クリッカーを用いた授業を実施し、参加者が授業を受ける学生となって体験しながら一緒に考える場としたい。【キーワード】授業改善/アクティブ・ラーニング/主体的・対話的で深い学び

- コーディネーター 平田 豊誠氏 佛光大学 教育学部 准教授
報告者 山川 正信氏 宝塚大学 学長
増田 ゆか氏 大阪府豊能郡豊能町立光風台小学校 校長
井上 伸一氏 大阪市教育委員会事務局 大阪市教育センター教育振興担当 指導主事
小川 博士氏 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 准教授

第2分科会 定員 160名(加盟校優先定員:95名)

学部・学科教育の改革・改善をいかに進めるか

本分科会では、学部や学科という単位での教育改善をいかに進めるべきかというミドルレベルのFDIについて議論を深めたい。登壇者の先生方に、人文科学(文学)、社会科学(経済・経営学)、自然科学(理学療法)という各領域において、実際に学部・学科単位の教育改善を進めてこられた事例をお話いただき、学部・学科レベルの教育改善は誰がどのように進めていけばよいのか、参加者と共に考える。

- コーディネーター 西野 毅朗氏 京都橋大学 教育開発支援センター 講師
報告者 松浦 京子氏 京都橋大学 文学部 学部長 / 教授
山本 啓一氏 北陸大学 経済経営学部 学部長 / 教授
平山 朋子氏 藍野大学 医療保健学部 准教授
斎藤 有吾氏 藍野大学 医療保健学部 助教

第5分科会 定員 30名(加盟校優先定員:18名)

特別支援学校教員養成における主体的な学修と地域連携の在り方について

特別支援教育の推進により、インクルーシブ教育システムの構築を目指している我が国において、特別支援教育の専門性を有する教員の養成は急務である。特に特別支援学校教諭免許取得には学校現場での体験が重要である。そこで、設置者や規模、歴史など様々な背景の大学における「教職の実践を体験させる機会」と「学生の主体的な学修」に関して参加者と共に考えたい。

- コーディネーター 太田 容次氏 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 准教授
報告者 小谷 裕美氏 京都教育大学 教育学部 教授
丹羽 登氏 関西学院大学 教育学部 教授
金森 克浩氏 日本福祉大学 スポーツ科学部 教授

第8分科会 定員 30名(加盟校優先定員:18名)

セクシュアル・マイノリティ学生にやさしい大学づくり

セクシュアル・マイノリティ学生にやさしい大学のあり方を、教職員と学生のそれぞれの立場から、当事者目線で考える機会を持ちたい。国際経験豊富な先生方から、諸外国での取り組みをご報告頂くとともに、ご自身の地域における取り組み、さらには全国の大学の取り組み状況などをお伺いする。その上で当事者学生の要望や実情などにも耳を傾け、将来的に誰もが居心地よく過ごせる大学のあり方を模索したい。

- コーディネーター 高石 浩一氏 京都文教大学 臨床心理学部 教授
報告者 葛西真記子氏 鳴門教育大学 基礎・臨床系教育部 教授
佐々木掌子氏 明治大学 文学部 准教授
松田 優一氏 学校法人関西大学 管財局 職員

第11分科会 定員 30名(加盟校優先定員:18名)

障がいのある学生に対する教育的支援の現状と課題

本分科会では下記の3点について検討を行う。(1)高等教育機関で求められる合理的配慮~文部科学省審議委員会での提言からの検討~(2)障がいのある学生に対して合理的配慮に基づいた教育を実践するために必要なこと~差別や偏見をなくし、障がいのある学生に対する教育保障するために教育機関がすべきことの検討~(3)教育機関での合理的配慮に基づいた教育実践報告~教育機関での障がいのある学生に対する実践報告を通じて、成果と課題についての検討~

- コーディネーター 安田 誠人氏 大谷大学 教育学部 教授
報告者 朝比奈寛順氏 大谷大学 文学部 教授
中村 一郎氏 京都市教育委員会 総合育成支援課 首席指導主事
三好 明夫氏 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 教授
山崎 学氏 大谷大学 学生支援部キャリアセンター 課長

第3分科会 定員 160名(加盟校優先定員:95名)

学生エンゲージメントと自立を促す支援としかけ~学生に関わる専門職の立場から~

本分科会では、大学における学生エンゲージメントと自立を促す支援としかけについて、アカデミック・アドバイジング(学習・大学適応)、心理カウンセリング(心理・発達)、キャリアサポート(進路選択)といった3つの異なる専門的立場から報告・検討を行う。それぞれの取組の中で、学生と支援者とがどのように関係性を構築していくのか、そこでの関与の質量やダイナミクスを学生エンゲージメントの視点から捉えてみたい。最終的には、参加者それぞれが日常的に遭遇する授業やゼミ、様々な支援の場面における学生との関わり方の現状や問題点、解決策などについて共有・検討を行う。

- コーディネーター 山田 剛史氏 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授
報告者 清水 栄子氏 追手門学院大学 基礎教育機構 准教授
杉原 保史氏 京都大学 学生総合支援センター/カウンセリングルーム センター長 / 教授
家島 明彦氏 大阪大学 全学教育推進機構 講師 / キャリアセンター 副センター長

第6分科会 定員 30名(加盟校優先定員:18名)

LMS(学習管理システム)を生かした教育改革

スマホやタブレットの普及、およびインターネット環境の充実により、教育も大きく変化している。大学においてもLMS(学習管理システム)の導入により、講義の効率化、ペーパーレス化、事務処理の効率化、学生-教員間におけるコミュニケーションの緊密化など様々なメリットを生み出してきた。本分科会では、LMSを活用されている先生方を招き、活用事例、メリットおよびデメリット、利用における注意点などを紹介していただく。今後の教育改善におけるLMSのさらなる活用方法について議論したい。

- コーディネーター 小田 真隆氏 京都薬科大学 生命薬科学系 教授
報告者 坂本 尚志氏 京都薬科大学 一般教育分野 准教授
阿部 一晴氏 京都光華女子大学 キャリア形成学部 教授
酒井 博之氏 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授

第9分科会 定員 30名(加盟校優先定員:18名)

生命科学部の教育のあり方を考える

生命系学部の多くは医学、薬学、農学、工学、等々の様々な学部にある生命科学の諸分野を一つの学部を集約し、学際的な学びができるように構成されている。本分科会では、この学際的な学びの指導体制について、特徴的な取り組みとその問題点、教員間の連携の他、学部教育のカリキュラム、FDの取り組み、等々が各大学の事例に即して幅広く紹介される。生命科学部の将来のあり方とともに、生命科学分野の教育のあり方に関する議論が期待される。

- コーディネーター 高橋 美帆氏 同志社大学 生命医科学部 助教
報告者 井上 英史氏 東京薬科大学 生命科学部 学部長 / 教授
稲田 康宏氏 立命館大学 生命科学部 教授
太田 哲男氏 同志社大学 生命医科学部 教授
石浦 草一氏 同志社大学 生命医科学部 特別客員教授 / 東京大学名誉教授

情報交換会 諒友館 地階食堂

1日目 2019年3月2日(土) 17:30~19:00

ポスターセッション 敬学館 2階

2日目 2019年3月3日(日)

ポスターセッションコアタイム 12:00~13:30

ポスターセッションでは、大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が実施する特色ある教育に関する取り組みを発表します。情報収集や、参加者間の交流の場としてご利用ください。コアタイムには、発表者がポスター前で参加者からの質問に答えます。

● **申込期間** 2019年1月5日(土)～1月31日(木) 【参加費支払期限: 2019年2月9日(土)】

加盟大学・短期大学の先行申込期間 2018年12月14日(金)～12月21日(金)

※大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の方を対象に、先行申込期間を設けています。先行申込期間中は、優先定員までの受付となります。

● **申込方法(Web申込のみ)** ※本フォーラムは事前申込制となっております。申込期間外およびフォーラム当日の参加申込受付は行っていません。

**STEP 1 お申込み(先着順)**

・申込みは先着順に受付、定員になり次第終了いたします。なお、キャンセル待ち受付は行っていません。  
・申込み手続き完了後は、分科会の変更ができませんのでご注意ください。

- 1 下記のURLから「メールアドレス確認(入力)フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。
- 2 「参加申込フォーム」のURLをお送りしますので、メールに記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込み手続きを行ってください。申込み手続き完了後に「申込完了メール」を送信します。

※「参加申込フォーム」URL通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力の可能性があります。その場合は、お手数ですが、「メールアドレス確認(入力)フォーム」を再入力・再送信してください。

**STEP 2 参加費のお支払**

【参加費支払期限: 2019年2月9日(土)】

申込み手続き完了後、払込票をお送りします。  
期日までに、コンビニエンスストアで参加費をお支払いください。払込票の取り扱い可能店は払込票の裏面に記載しております。銀行・ゆうちょ銀行などの金融機関ではお取り扱いができませんのでご注意ください。

※お支払いいただく参加費につきましては、印刷費、WEBシステム運営費、通信費など、諸準備に使用いたします。いかなる理由があっても返金等には応じられませんのでご了承ください。

**STEP 3 参加証(メール)の受領**

参加費のお支払いが確認できましたら、参加証(メール)をお送りします。  
2月19日(木)までに参加証(メール)が届かない場合は、FDフォーラム事務局までお問い合わせください。

**STEP 4 フォーラム当日**

プリントアウトした参加証(メール)をご持参のうえ、受付にご提示ください。  
※代理の方が参加される場合は事務局にご連絡ください。

● **参加費用**

所属	区分	シンポジウム・分科会	情報交換会	2日目(3月3日)昼食
加盟 大学・短期大学	教職員	3,000円	4,000円	1,000円
	学生(大学院生含)	無料	2,000円	
非加盟 大学・短期大学	教職員	5,000円	4,000円	
	学生(大学院生含)	1,000円	2,000円	

● **2日目(3月3日)の昼食について**

3月3日は、立命館大学衣笠キャンパス内の食堂、購買部は営業していません。そのため、FDフォーラム参加者用に、諒友館食堂での昼食券を事前申込制で販売いたします。(メイン料理注文、副菜セルフバー形式で税込1,000円です)  
FDフォーラム参加申込みの際に昼食券購入の有無を確認させていただきます。  
購入希望者へは、昼食券代金(1,000円)を含んだ参加費払込票をお送りいたします。昼食券は、フォーラム当日の受付でお渡しいたします。昼食券の当日販売は行いません。

URL <http://www.consortium.or.jp/project/fd/forum>

もしくは



● **会場(立命館大学 衣笠キャンパス)へのアクセス**



**JR・近鉄京都駅(烏丸中央口)**

市バス 「京都駅前」(B2のりば)から  
50 で約42分、「立命館大学前」下車  
「京都駅前」(B3のりば)から  
205 で約38分、「衣笠校前」下車 → 徒歩約10分

JRバス 「京都駅」(JR3番のりば)から  
高雄・京北線 で約30分、「立命館大学前」下車

**阪急西院駅**

市バス 「西大路四条」(Eのりば)から  
205 で約13分、「衣笠校前」下車 → 徒歩約10分

京福電鉄 京福西院駅から 嵐山本線・北野線 で約25分、  
「龍安寺駅」または「等待院駅」下車 → 徒歩約6分

**阪急大宮駅**

市バス 「四条大宮」(6番のりば)から  
55 で約25分、「立命館大学前」下車

**京阪三条駅**

市バス 「三条京阪前」から  
15 51 (1番のりば)、59 (2番のりば)で約40分、  
12 (7番のりば)で約53分、「立命館大学前」下車

**JR・地下鉄二条駅**

市バス 「二条駅前」から  
15 55 で約20分、「立命館大学前」下車

**JR円町駅**

市バス 「西ノ京円町」から  
15 で約10分、「立命館大学前」下車  
204 205 で約10分、「衣笠校前」下車 → 徒歩約10分

JRバス 「円町」から  
高雄・京北線 で約8分、「立命館大学前」下車

※バス乗車時間は目安となります。道路交通状況等によって変わります。

学内には駐車場がございません。  
ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

《バス増便案内》  
フォーラム当日(3月2日、3日)は、京都市バス「京都駅前↔立命館大学前」を増便予定です。(運賃230円。チャーター便ではございません。フォーラム参加者以外の方もご利用いたします。)  
詳細については、2月上旬頃にホームページにてご案内いたします。

<立命館大学 衣笠キャンパスマップ>



● **お問合せ先**

公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都内  
教育開発事業部 FDフォーラム事務局  
TEL:075-353-9163 E-mail:fd@consortium.or.jp  
窓口受付時間: 火曜～土曜 9:00～17:00(年末年始を除く)